

日本にはお米を

雲仙市立国見中学校二年 前田 野花

私には六歳年下の弟がいます。生まれたときは早くお世話をしてあげたいと思いました。そんな私にあたえられた初めての試練は弟にごはんを食べさせることでした。歯が生えていない弟のためにつくったバチよバチよのおかゆ。味もなく、私にとってはどこがおいしいのだろうと思いました。それでも弟は、そのおかゆを一生懸命飲みこんでいました。

雲仙市立国見中学校

おかゆは弟にとって大事な栄養源なんだと思いました。いました。そのころの私は、ふりかけなしではお米が食べられないくらい、お米のおいしさを知りませんでした。味がなくて、時間がたつとパサパサして好きではありませんでした。それでも毎日、白米が食卓にならびました。父も母も姉も弟もみんな、みんな食べていました。その時期、私は手足口病という病気にかかっ

てしまいました。口の中がすごく痛くて、何

も食べられなかったです。そのとき、母はず
っとおかゆを作ってくれました。べちべち
よだけど、少し塩の味がして、卵も入れてく
れました。口の痛みも特に感じることなく、
スムーズに食べることもできました。そして、
とてもおいしかったのを覚えていきます。そ
のとき、弟が食べていたおかゆを思い出しま
した。お米は老若男女関係なく、いつでも食
べられることに気づいたので、

雲仙市立国見中学校

べられるようになりました。父が苗から育て
たお米です。なんで今までこのおいしさに気
づかなかったのだろうと思いました。つやつ
やで少しねばり気がある。とても甘いです。
おかわりもするようになりました。たまには
自分でチャーハンにしたり、明太子をのせて
みたりなどしました。お米の甘さにとっても
合います。そして私は、父と一緒に米づくり
を始めました。機械での作業が多けれ
ど、しっかりと愛情をこめました。その年のお

米はすごくおいしくできました。私はそのお米を食べたとき、思わず「うんま」とさげんでしまいました。

私はお米には無限のパワーがあると思います。私もいろいろな品種があって、それぞれ味もちがう。そして、いろいろな人たちが食べられて味変もできる。私は、日本の食卓からお米を日本の風景から水田、稲を消さないようにしたいと思いました。そのために、これからもずっとお米を作り、食べ続けていきたいです。